

3.シーリングのポイント

1.低モジュラス品を選定する。

シポレックスパネル目地間および他部材との取合い部に用いるシーリング材には、低モジュラス品を選定してください。低モジュラス品は、50%引張応力0.2N/mm²以下をものを目安としています。高モジュラス品を採用した場合、シポレックスパネルの目地部にひび割れなどの損傷を生じる可能性があります。

2.パネル取付構法および表面塗装の有無とシーリング材種類の適否に留意する。

シーリング材の選定にあたっては、パネル取付構法およびシーリング材表面塗装の有無による適否に留意してください。

シーリング材の耐久性区分によるシーリング材の種類と選定の目安を下表に示します。

シーリング材の種類と選定の目安表

構 法		シーリング材表面への塗装の有・無	耐久性区分				
			7020	8020		9030	
			アクリル系 (AC-1)	1成分形ポリウレタン系 (PU-1)	2成分形ポリウレタン系 (PU-2)	1成分形変成シリコン系 (MS-1)	2成分形変成シリコン系 (MS-2)
縦壁	SDR構法	有	○	○	○	○	○
		無	×	×	×	○	○
	SDS構法	縦目地	有	○	○	○	○
			無	×	×	×	○
		横目地	有	×	○	○	○
			無	×	×	×	○
横壁	SDR構法	有	○	○	○	○	
		無	×	×	×	○	

○:適 ×:不適

※縦壁スライド構法はSDS構法、横壁ボルト止め構法は横壁SDR構法に準じます。

表中、シーリング材の耐久性及び主成分の記号は、JISA5758・2004(建築シーリング材)の付属書2(参考)「主成分、製品形態及び耐久性による区分」による。

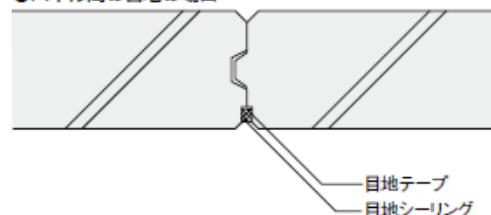
3.ワーキングジョイントとなるパネルの目地は、二面接着とする。

シポレックスSDR構法など変形追従性能の高い取付構法によるパネル間の目地や他部材との取合部などの伸縮目地は、ワーキングジョイントになります。

ワーキングジョイントには、SDR構法用の目地テープやボンドプレーカーを張る又は、バックアップ材を充填するなどしてシーリング材を二面接着とし、目地部の変形に追従できるようにする必要があります。

なお、SDS構法および縦壁スライド構法の縦目地は、ノンワーキングジョイントですので、3面接着とします。ただし、横目地などの伸縮目地は、ワーキングジョイントとなりますので、2面接着とします。

●パネル間の目地の場合



4.シーリング材の標準仕様を遵守する。

シーリング材性能を確保する為にプライマー等は、シーリング材メーカー標準仕様を遵守してください。

□このパンフレットに記載された商品は、品質向上を目的に予告なく設計仕様や取り扱いを変更することがありますので、ご了承ください。

(C)SUMITOMO METAL MINING SIPOREX ALL Rights Reserved